

尾道市の財政状況をお知らせします

平成30年度決算(見込み)

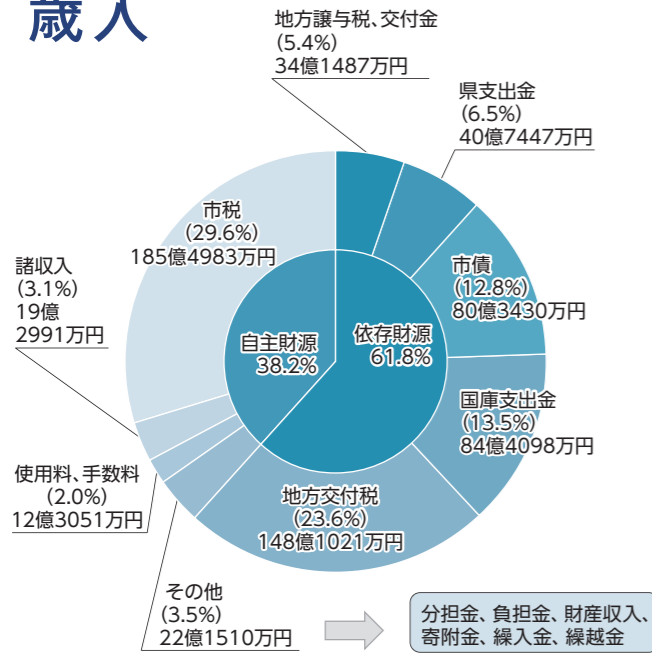
※表示未満の端数を四捨五入しているため、金額・構成比は合計値に合致しない場合があります。 財課(☎0848-38-9323)

一般会計決算(見込み)

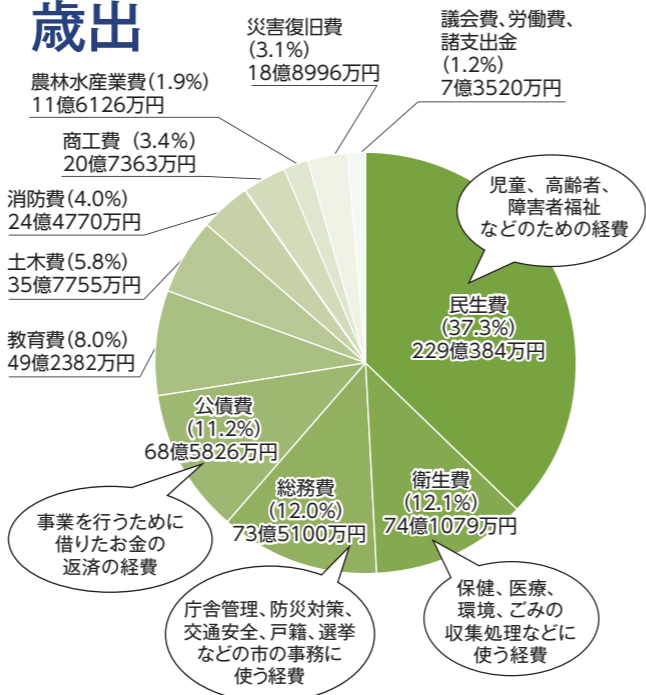
福祉や教育、道路整備など市民生活に直接関係する事業を行う会計です。

歳入 627億17万円 - 歳出 613億3300万円 = 差引 13億6717万円
(前年度比 +7億3547万円)

歳入



歳出

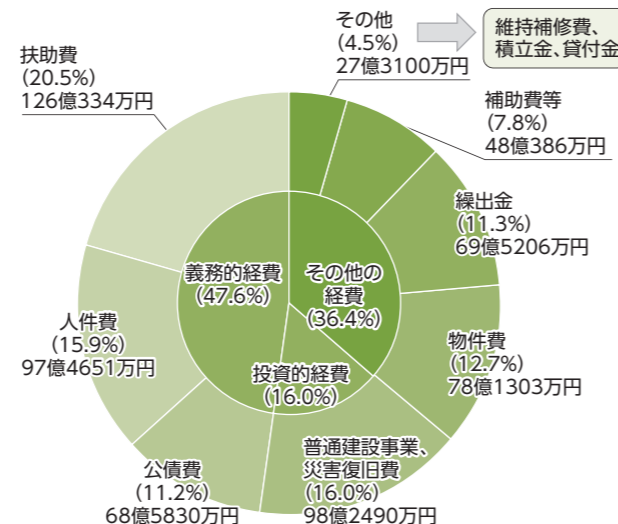


歳入は、地方交付税や財産収入は増加しましたが、国県支出金や基金からの繰入金、地域振興事業債の減などによる地方債の減少の影響もあり、前年度と比較して**53億7267万円**減少しています。

自主財源の柱となる市税収入は185億4983万円で、法人市民税の増加はありましたが、固定資産税や個人市民税などの減少により、7921万円減少しています。

歳出は、平成30年7月豪雨災害にかかる災害復旧費や庁舎整備事業費などの増加はありますが、因瀬クリーンセンター整備事業、因島総合福祉保健センター建設事業、地域振興基金積立金の減、災害復旧費や総務費など57億2726万円を翌年度に繰越した影響などにより、前年度と比較して**61億814万円**減少しています。

歳出を性質別に見てみると...



市民の負担とサービスの状況

市民1人当たりの市税負担額

市民1人当たりのサービス額

135,548円 (+941円)

448,174円 (△39,132円)

市税のほかに国や県からの補助金などを活用して、行政サービスを実施しました。
※()内は、前年度比。
※平成31年3月末住民基本台帳人口136,851人で計算。

平成30年度の予算は主にこのようなことに使われました



御調支所庁舎整備事業
平成30年度事業費 1億5020万円



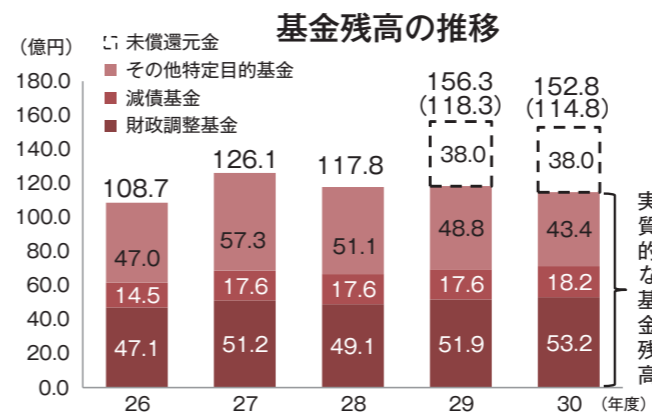
向東認定こども園整備事業
平成30年度事業費 7億7423万円



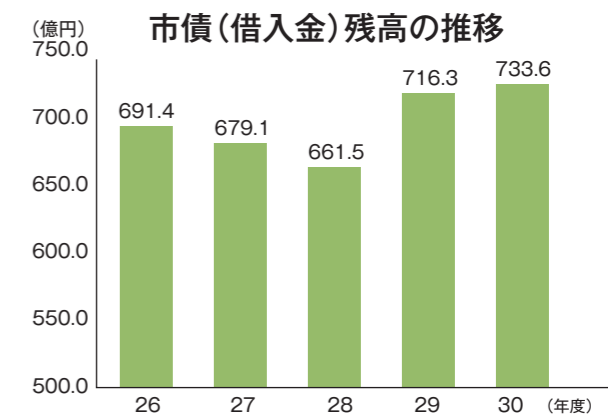
救急患者搬送船整備事業
平成30年度事業費 5162万円

私たちのまち"尾道"の財政状況を見てみましょう

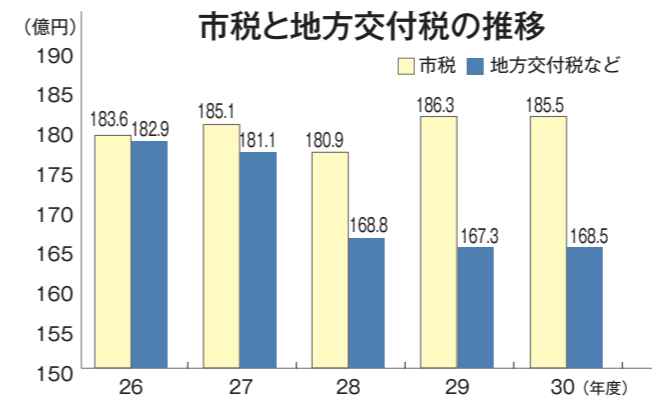
※普通会計の数値で作成しています。



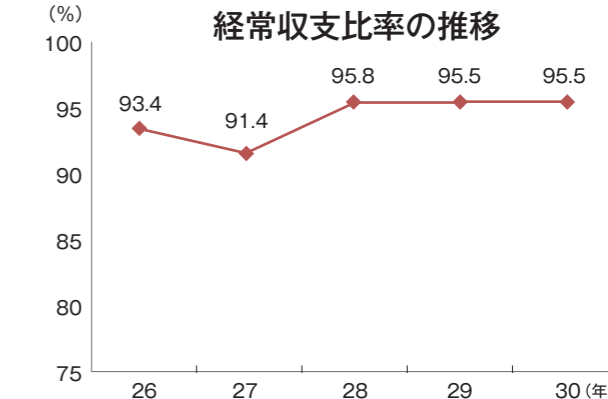
平成30年度末現在 基金残高 152億8113万円
市は災害や市税収入の減少などに備えて基金を積み立てています。基金残高は、前年度より3億5040万円減少しています。
※地域振興基金40億円のうち、38億円は合併特例債の借入により積み立てているため、未償還元金を除いた額を実質的な基金残高として()内に表示しています。



平成30年度末現在 市債残高 733億6056万円
災害復旧事業、庁舎整備事業や向東認定こども園整備事業などの事業のための借入により市債残高は前年度より17億2869万円増加しています。



平成30年度 市税 185億4983万円
地方交付税など 168億4921万円
市税収入は、固定資産税や個人市民税などの減により減少しましたが、地方交付税など(実質的な地方交付税として臨時財政対策債を加えたもの)は増加しました。



平成30年度 経常収支比率95.5%
家計でいえば、毎月得られる給料などのうち、食費・光熱水費・ローンの返済など毎月決まって支払う生活費が占める割合のことです。数値が高いほど財政にゆとりがなく硬直化していることを表します。平成30年度は前年度と同じ95.5%でした。

用語の説明

普通会計	他市との財政比較を行うための統計上の会計。尾道市では、一般会計に港湾事業特別会計、夜間診療所事業特別会計を合わせたもの。
市税	市民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税など
地方交付税	自治体の財政状況に応じて交付される国からの財源
臨時財政対策債	国税収入が減少し、普通交付税を配分する財源が不足した場合、その不足分を補うために発行する市債
市債	事業を行うために国や金融機関から借り入れたお金